

神戸女学院大学

ポリシー

(大学院)

2025 年度

神戸女学院大学 学長室

目次

大学院.....	1
ミッションステートメント.....	1
ディプロマ・ポリシー.....	1
カリキュラム・ポリシー.....	1
アドミッション・ポリシー.....	2
文学研究科.....	3
文学研究科英文学専攻 博士前期課程.....	3
ディプロマ・ポリシー.....	3
カリキュラム・ポリシー.....	3
アドミッション・ポリシー.....	4
文学研究科比較文化学専攻 博士前期課程.....	4
ディプロマ・ポリシー.....	4
カリキュラム・ポリシー.....	5
アドミッション・ポリシー.....	5
大学院文学研究科博士後期課程.....	6
ディプロマ・ポリシー.....	6
カリキュラム・ポリシー.....	6
アドミッション・ポリシー.....	7
音楽研究科.....	8
ディプロマ・ポリシー.....	8
カリキュラム・ポリシー.....	8
アドミッション・ポリシー.....	9
人間科学研究科.....	10
ディプロマ・ポリシー.....	10
カリキュラム・ポリシー.....	10
アドミッション・ポリシー.....	11

大学院

ミッションステートメント

神戸女学院大学大学院は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることがなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

ディプロマ・ポリシー

神戸女学院大学大学院は、キリスト教主義の伝統ある女性高等教育機関として、学院標語「愛神愛隣」に基づいて、置かれた場で時代の潮流に流されることがなく利害を超えて自らの役割を果たす、他者と深く共感する人格を養成します。

そのような人格に必要な以下の能力を修得し、学位論文・最終試験を含む修了要件を満たした人に対して修士の学位を授与します。

1. 高度な専門的なものの見方や表現力、専門的技術を体系的に備え、専門的技術を活かした教育・研究キャリアに従事する能力
2. 共感性の高い人格的教養を備え、専門領域の知識や技術を有効に社会に還元する能力
3. 主体的に学び続ける姿勢を備え、新たな企画を創造する能力
4. 様々な他者と交流できる優れたコミュニケーション力と社会の一員としての高い倫理的意識を備え、愛と奉仕の精神で人々に尽くす能力

また、上記のような人格に必要な以下の能力を修得し、学位論文・最終試験を含む修了要件を満たした人に対して博士の学位を授与します。

1. 専門領域のより深い知識と思考力を備え、自立した研究者、指導者としての能力
2. 主体的に学び続ける姿勢を備え、新たな企画を創造する能力
3. 様々な他者と交流できる優れたコミュニケーション力と社会の一員としての高い倫理的意識を備え、愛と奉仕の精神で人々に尽くす能力

修士、博士の学位に伴う学位論文の審査あるいは最終試験においては、公開発表会を行います。

カリキュラム・ポリシー

神戸女学院大学大学院は、ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するために、文学研究科（博士前期・後期課程）、人間科学研究科（博士前期・後期課程）、音楽研究科（修士課程）を置き、次のような方針に基づいて教育科目を設定します。

1. 学生が高度な専門的学術理論・技術を修得し、研究することができるようになるための科目を設定すること（専門科目）

2. 学生が社会に貢献するために必要なキリスト教精神を育むための科目を設定すること（キリスト教学）
3. 学生が文化・思想・科学の進歩に寄与する独創性、論理的思考力、表現力を獲得するための科目を設定すること（演習科目）

教育課程については、体系的・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

アドミッション・ポリシー

本学大学院のミッションステートメントとディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、それぞれの研究科・専攻の教育課程を履修するために必要な学力を備えた人を受け入れます。その目的を達成するため、入学試験を下記の通り実施します。

博士前期課程、修士課程

1. 高度な専門的知識を深く修得することを志す人
2. 修得した技能を活かし、より善い社会の実現を志す人
3. 他者への共感性を備え、隣人に仕えることを志す人

全ての研究科において、高度な専門的知識を獲得するのに必要な学力（外国語の能力、思考力・表現力）を備えた人を広く受け入れるために、一般入学試験（秋季(全研究科)と春季(文学研究科、人間科学研究科)）を実施します。また、文学研究科および人間科学研究科では本学の学部教育に引き続き学びたい人を受け入れるために、内部推薦入学試験（夏季）を実施します。

博士後期課程

1. 高度に専門的なものの見方や表現力、専門的技術を体系的に備え、専門的技術を活かした教育・研究キャリアに従事することができる人
2. 共感性の高い人格的教養を備え、専門領域の知識や技術を有効に社会に還元することができる人
3. 主体的に学び続ける姿勢を備え、新たな企画を創造することができる人
4. 様々な他者と交流できる優れたコミュニケーション力と社会の一員としての高い倫理意識を備え、愛と奉仕の精神で人々に尽くすことができる人

文学研究科、人間科学研究科においては、高度な専門的知識、創造性および表現力を備えているとみなすことのできる人を広く受け入れるために、一般入学試験（春季）を実施し、研究立案力、思考力、表現力、外国語の能力について考査します。

文学研究科

文学研究科英文学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

大学院 3 ポリシーのもと、文学研究科では、人間の精神活動や社会活動への深い洞察力と国際的視野をもって、国際社会や地域社会に貢献する人格を養成します。英文学専攻では、英語を駆使し、未知の事柄について自ら正しく学びを深める能力を持ち、なおかつそれを通して現代社会の諸問題について、人権を尊重しつつ社会に発信する能力を持つ人格を養成します。

そのような人格に必要な以下の能力を修得し、博士前期課程の修了要件を満たした人に対して修士（英文学）の学位を授与します。修了の認定にあたっては、学位論文・学位課題研究の公開審査をうけ、最終試験に合格することが求められます。

1. 国際語である英語を駆使することにより、人文社会科学諸分野の専門領域における高度の知識と技能を得、研究倫理を遵守しつつ明確な問題意識をもって研究課題を探究する能力
2. 英語、日本語および他言語を通し、広く人間の営みおよび国際社会についての学識を備え、社会のさまざまな領域において専門的知識・技能を活かした貢献ができる能力
3. 母語及び英語をはじめとする外国語の高い運用能力とコミュニケーション能力を備え、多様な価値観をもつ他者と共感・共生し、また仲介する能力

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するため、英文学専攻（博士前期課程）には、英文学、英語学、通訳・翻訳、グローバル・スタディーズの4つのコースを置き、それぞれ文学作品とその背景にある思想・歴史・文化の研究及び批評、英語学・言語学の基礎理論及び方法論、通訳・翻訳の理論・技術及びそれに必要な専門領域の知識、国際社会における諸問題の性質と対策に関する理論と応用を、教授・研究します。その目的を達成するため、以下のような基本方針に基づくカリキュラムを編成します。

1. 研究調査能力、言語運用能力、現場における実践的能力を養う科目を設定すること
2. 専門的な知を有機的に結合し、学際的視野に立った総合判断力を養うことのできる教育課程を編成すること、具体的には、
 - i. 英文学コースにおいては、古今の英語で書かれた文学作品およびその批評などを通し、言葉の力や文学作品の重層性や解釈について学び、作品と、その背景をなす社会、文化、歴史などについて自らの視点を見出す能力を養成するような科目群を設置すること
 - ii. 英語学コースにおいては、言語科学の現代の課題に対処する能力を養成するため、英語学・言語学の基礎理論・方法論を学ぶことにより言語という営みの背景にある哲学、数理、対照言語学的視点を養うような科目群を設置すること
 - iii. 通訳・翻訳コースにおいては、通訳研究者として自立できるような能力を養成するため、経験豊かな通訳・翻訳者による演習、講義科目を設置すること
 - iv. グローバル・スタディーズコースにおいては、文化、政治、経済、社会とメディアの分野において豊かな学識を持ち、国際社会で活躍できるグローバル市民を養成するため、講義や研究を全て英語で行い、国際関係、メディアとコミュニケーション、ジェンダーと移民、グローバルビジネスおよび経済

の各分野を深く研究することを可能にする科目群を設置すること

3. 高度専門的なキャリア育成のための教育課程や科目を設定し、また高度専門職を目指す社会人学生に配慮した履修プログラムを提供すること
4. 交換留学プログラムや国際プロジェクト等、国際的な研鑽や学術交流の機会をもうけること
5. 修士論文・修士課題研究作成において、高度な専門性を追及するとともに、領域横断的・総合的な視座への研究課題の位置づけをうながす、研究指導体制をとること

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

アドミッション・ポリシー

本学大学院のミッションステートメントと本研究科本専攻のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、それぞれのコースの教育課程を履修するために必要な学力を備えた人を受け入れます。

1. 英語、日本語をはじめとする諸言語を駆使し、情報を正確になおかつ多角的にとらえ、社会、言語、文化に関わる現代の諸問題を解決する力がある人
2. 英語、日本語および他言語を用いつつ、他者との共感性、多様性への理解力を持ち、その諸問題を論理的に考察し発信する意欲がある人
3. 明確な研究目的をもって課題を積極的に発見し、探求する意欲がある人
4. 本専攻の理念・目的を理解し、自ら学修・研究を進めることができる人

本学の学部教育に引き続き学びたい人を受け入れるために、内部推薦入学試験を実施します。高度な専門的知識を獲得するのに必要な学力（外国語の能力、専門分野を学ぶための基礎知識・技能、思考力・表現力）を備えた人を広く受け入れるために、一般入学試験を実施します。多様な経験やキャリアをもとに、より高い専門性を目指したい人のために、外国人留学生入学試験、社会人入学試験を実施します。

文学研究科比較文化学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

大学院 3 ポリシーのもと、文学研究科では、人間の精神活動や社会活動への深い洞察力と国際的視野をもって、国際社会や地域社会に貢献する人格を養成します。

比較文化学専攻では、比較文化的な知識・教養と思考力・判断力を備え、それをさまざまなかたちで社会に活かすことのできる人格を養成します。

そのような人格に必要な以下の能力を修得し、博士前期課程の修了要件を満たした人に対して修士（比較文化学）の学位を授与します。修了の認定にあたっては、学位論文の公開審査をうけ、最終試験に合格することが求められます。

1. 人文社会科学諸分野の専門領域における高度の知識・技能と、学際的・総合的な知性を備え、研究倫理を遵守しつつ明確な問題意識をもって研究課題を探究する能力

2. 広い視野と豊かな学識を備え、社会のさまざまな領域において専門的知識・技能を活かした貢献のできる能力
3. 母語及び外国語の高い運用能力とコミュニケーション能力を備え、多様な価値観をもつ他者と共感・共生し、また仲介する能力

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するため、文学研究科比較文化学専攻（博士前期課程）では、哲学・美学・思想・教育、歴史学、文学及び社会科学の諸分野をふまえ、文化・思想・宗教・歴史・芸術その他の視点から、日本をはじめ諸地域の個々の文化を探究し、比較研究をおこないます。

そのため、以下のような基本方針に基づくカリキュラムを編成します。

1. 各専門分野における高度な専門的知識・技能を身につける科目を設定すること
2. 専門的な知を有機的に結合し、学際的視野に立った総合判断力を養うことができるよう、日本文化系科目（A群）と比較文化系・比較社会系科目（B群）両群の履修を課し、さらに他専攻の科目履修を可能にする教育課程を編成すること
3. 専門的な指導のもとで各自の研究課題を深め、修士論文を作成するための研究指導科目（比較文化学特別研究）を設置すること
4. 多彩な専門領域をもつ比較文化学専攻院生全員と教員が集う場での研究報告を通じて、総合的・領域横断的視座への研究課題の位置づけを促す科目（比較文化学総合演習）を設置すること
5. 高度専門的なキャリア育成のための教育課程や科目を設置し、また高度専門職を目指す社会人学生に配慮した履修プログラムを提供すること
6. 交換留学プログラムや国際プロジェクト等、国際的な研鑽や学術交流の機会をもうけること

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

アドミッション・ポリシー

本学大学院のミッションステートメントと本研究科本専攻のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、博士前期の教育課程を履修するために必要な学力を備えた人を受け入れます。

1. 本専攻が求める高度の専門的知識や実践的スキルに関わる基礎をもった人
2. 国際的視野に立った研究を遂行する基礎となる知識と能力をもった人
3. 明確な研究目的をもって課題を積極的に発見し、探求する意欲がある人
4. 本研究科の理念・目的を理解し、自ら学修・研究を進めることができる人

本学の学部教育に引き続き学びたい人を受け入れるために、内部推薦入学試験を実施します。高度な専門的知識を獲得するのに必要な学力（外国語の能力、専門分野を学ぶための基礎知識・技能、思考力・表現力）を備えた人を広く受け入れるために、一般入学試験を実施します。多様な経験やキャリアをもとに、より高い専門性を目指したい人のために、外国人留学生入学試験、社会人入学試験を実施します。

大学院文学研究科博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

大学院3ポリシーのもと、文学研究科博士後期課程では、人間の精神活動や社会活動への深い洞察力と国際的視野をもって、国際社会や地域社会に貢献する人格を養成します。

そのような人格に必要な以下の能力を修得し、博士後期課程の修了要件を満たして博士学位論文を提出した人に対して、博士（文学）の学位を授与します。博士学位の認定にあたっては、学位論文の公開審査をうけ、最終試験に合格することが求められます。

1. 人文社会科学分野の専門領域における高度で先端的な知識・技能を備え、研究倫理を遵守しつつ独創的な研究を遂行する能力
2. 広い視野と豊かな学識を備え、自立した研究者や指導者として、あるいは専門的職業人として活動できる資質と能力
3. 母語及び外国語の高い運用能力とコミュニケーション能力を備え、研究の成果を国内外に発信して社会に還元する能力

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するため、文学研究科博士後期課程に、英文学専攻（英文学コースおよび英語学コース）、比較文化学専攻の2専攻を置きます。博士前期課程で身につけた学識と能力をさらに発展させ、研究者として自立した活動をおこなうのに必要な高度の研究能力を養い、博士学位の取得を目標とした研究指導をおこないます。

英文学専攻（英文学コースおよび英語学コース）においては、以下の方針でカリキュラムを編成します。

英文学コース

1. 専門分野における高度の専門知識・技能と研究手法を身につけ、自らの研究課題を深化・発展させるための科目を設置すること（アメリカ文学特論、イギリス文学特論）
2. 専門的な指導のもとで各自の研究課題を深め、博士学位論文の執筆をすすめるための研究指導科目を設置すること（博士論文執筆演習）

英語学コース

1. 専門分野における高度の専門知識・技能と研究手法を身につけ、自らの研究課題を深化・発展させるための科目を設置すること（言語理論特論、言語学特論）
2. 専門的な指導のもとで各自の研究課題を深め、博士学位論文の執筆をすすめるための研究指導科目を設置すること（博士論文執筆演習）

比較文化学専攻においては、以下の方針でカリキュラムを編成します。

1. 各専門分野における高度の専門知識・技能と研究手法を身につけ、自らの研究課題を深化・発展させるための科目を設置すること（比較文化学特殊研究）

2. 専門的な指導のもとで各自の研究課題を深め、博士学位論文の執筆をすすめるための研究指導科目を設置すること（比較文化学合同演習）
3. 多彩な専門領域をもつ比較文化学専攻院生全員と教員が集う場での研究報告を通じて、総合的・領域横断的視座への研究課題の位置づけを促す科目（比較文化学総合演習）を設置すること

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

アドミッション・ポリシー

本学大学院のミッションステートメントと本研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、教育課程を履修するために必要な以下の学力を備え、博士論文執筆をめざす人を受け入れます。

1. 各専攻・コースが求める高度の専門的知識や実践的スキルに関わる基礎をもった人
2. 国際的視野に立った研究を遂行する基礎となる知識と能力をもった人
3. 明確な研究目的をもって課題を積極的に発見し、探求する意欲がある人
4. 研究者や指導者、あるいは専門的職業人を目指し、自ら創造的研究を進めることができる人

博士前期課程における研究成果をふまえて、さらに高度な専門的研究をすすめるのに必要な学力（外国語能力、専門分野を学ぶための知識・技能、思考力・表現力）を備えた人を受け入れるために、一般入学試験を実施します。海外において修士課程を修了し、より高い専門性を目指したい人のために、外国人留学生入学試験を実施します。

音楽研究科

ディプロマ・ポリシー

大学院3ポリシーのもと、音楽研究科では、ひとりの芸術家として時代の潮流に流されることなく利害を超えて自らの役割を果たす、音楽を通して他者と深く共感する人格を養成します。

そのような人格に必要な以下の能力を修得し、修了要件を満たした人に対して修士（音楽）の学位を授与します（A. 修士作品・修士副論文、または修士演奏・修士副論文。あるいは B. 修士作品・最終試験、または修士演奏・最終試験）。

1. プロフェッショナルな芸術観や音楽表現技術を体系的に備え、それらを活かした研究者、作曲家、演奏家、指導者になる能力
2. 音楽の持つ共感力を理解する人格的教養を備え、音楽の知識や音楽で表現する事の素晴らしさを自らの実践によって社会に伝える能力
3. 芸術について主体的に学び続ける姿勢を備え、音楽活動の新たな企画を創造する能力
4. 音楽を通じてさまざまな共演者や聴衆と交流、交感できる優れたコミュニケーション力と社会の一員としての高い倫理的意識を備え、愛と奉仕の精神で人々に尽くす能力

音楽研究科では上記のような能力を修得して所定の単位を取得すること。その際特に、音楽研究科修了試験において公開演奏会の形式で修了演奏または修了作品を発表し、専門教員全員と外部から招聘した審査員による評価を受けることが求められます。優秀な成績を収めた学生には、学外で開催する修了披露演奏会に出演・発表する機会が与えられます。

カリキュラム・ポリシー

大学院3ポリシーのもと、音楽研究科（修士課程）では、本研究科ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するために音楽表現専攻を置き、専門分野・研究領域として作曲、声楽、器楽（ピアノ、オルガン、チェンバロ、弦・管・打、ハープ）を含みます。

本専攻は、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1. 学生の専門分野・研究領域ごとに個人指導の形態をとる科目（研究領域実技）や、すべての専門分野に開放されている選択科目（音楽表現各論、音楽表現特別実習）、また修士副論文等の指導科目（課題研究）を編成すること
2. キリスト教主義に支えられた西洋音楽芸術を、学生がより深く理解する科目を設定すること（キリスト教学、キリスト教音楽）
3. 学生が専門分野・研究領域の枠を越えて広い視野から多角的に音楽芸術表現を研究する科目（音楽表現総合研究）や、分野に共通する課題について公開授業の形態で意見交換、討論、研究発表を行う科目（専門分野特論）を編成すること

教育課程については、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携 や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

アドミッション・ポリシー

大学院3ポリシーのもと、音楽研究科では、本研究科ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーをよく理解し、本研究科音楽芸術表現専攻の教育課程を履修するために必要な学力を備えた人を受け入れます。

1. 音楽分野で高度な専門的技術や知識を深く修得することを志す人
2. 修得した音楽分野の高い能力を活かし、芸術の力によってより善い社会の実現を志す人
3. 他者への共感性を備え、音楽家として隣人に仕えることを志す人

音楽研究科においては、高度な専門的技術と知識を獲得するのに必要な能力（外国語の能力、思考力、音楽表現力）を備えた人を広く受け入れるために、一般入学試験（秋季）を実施します。

本研究科の入学試験では、専門分野ごとに定められた実技試験と共通の筆記試験を課します。

人間科学研究科

ディプロマ・ポリシー

大学院3ポリシーのもと、人間科学研究科では、人間やそれを取り巻く自然や環境に対する幅広い視野と知識をもとに、社会に還元しうる知見を生み出すことを目指しつつ、深い洞察力と国際的視野をもって、国際社会や地域社会に貢献する人格を養成します。

そのような人格に必要な以下の能力を修得し、博士前期課程の修了要件を満たした人に対して修士（人間科学）の学位を授与します。修了の認定にあたっては、学位論文の公開審査をうけ、最終試験に合格することが求められます。

1. 人間の心と身体、社会や人間を取り巻く自然、環境、その成り立ちや働き、その多様性について専門的知識を幅広く備え、研究倫理を遵守しつつ、豊かな感受性で、多面的視点から人間や環境を理解する能力
2. 人間やそれを取り巻く自然や環境を対象に、主体的に課題を見つけて研究計画を立て、データを分析し考察することで培われる科学的、実証的に課題を探究する能力
3. 「愛神愛隣」の精神に基づいて、多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができる能力
4. 学位論文研究等で得られた成果を、よりよい社会実現のために、学会、研究会等で発信、討論できる能力

また、上記のような人格に必要な以下の能力を修得し、博士後期課程の修了要件を満たして博士學位論文を提出した人に対して、博士（人間科学）の学位を授与します。博士學位の認定にあたっては、学位論文の公開審査をうけ、最終試験に合格することが求められます。

1. 人間や環境を対象とした分野の専門領域における高度で先端的な知識・技能を備え、研究倫理を遵守しつつ独創的な研究を遂行する能力
2. 広い視野と豊かな学識を備え、自立した研究者や指導者として、あるいは専門的職業人として活動できる資質と能力
3. 母語及び外国語の高い運用能力とコミュニケーション能力を備え、研究の成果を国内外に発信して社会に還元する能力

人間科学研究科では修士論文および博士論文は主査および副査が審査し、研究科委員会で可否を判定します。研究科委員会での審議を経たのち、大学院委員会で可否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は3か月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物及びインターネットの利用により公表します。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するため、人間科学研究科（博士前期・後期課程）に人間科学専攻を置き、次のような方針に基づいて教育科目を設定します。

博士前期課程

博士前期課程には臨床心理学分野、人間行動学分野、環境科学分野、健康科学分野の4分野を置きます。臨床心

理学分野は公認心理師および臨床心理士養成のための高度職業人育成教育と臨床心理学分野の研究を行います。この分野は、公認心理師養成に必要なカリキュラムを完備し、また（財）日本臨床心理士資格認定協会より臨床心理士養成大学院第1種指定を受け、心の問題とその援助法を探究します。人間行動学分野は人間の認識や行動、社会、文化の諸問題を探究します。環境科学分野は人間が環境に及ぼす影響を理解し、人間と自然の関係を探究します。健康科学分野は環境要因と健康、食と健康との関係、心身の相互作用などを研究します。

博士前期課程では、専攻・分野の特性にあわせて、以下のような基本方針に基づくカリキュラムを編成します。

1. 専攻・分野において、専門分野における高度な専門的知識・技能を身につける科目を設定すること（専門科目）
2. 学生が社会に貢献するために必要なキリスト教精神を育むための科目を設定すること（キリスト教学）
3. 専門的な知を有機的に結合し、学際的視野に立った総合判断力を養うために「合同演習」という人間科学研究科の学生全員が研究発表する演習科目を設けること（人間科学合同演習）
4. 研究調査能力、実験や検査に関わる技能、知識、現場における実践的能力を養う科目を設定すること（演習、実習科目）
5. 公認心理師および臨床心理士養成のため高度専門的なキャリア育成のための教育課程や科目を設定し、また高度専門職を目指す学生に配慮した履修プログラムを提供すること（資格関連科目）
6. 修士論文・修士課題研究作成において、高度な専門性を追及し、幅広い視野や知識技術を活かした成果を生み出すよう指導すること（特別研究）

博士後期課程

博士後期課程には臨床人間科学分野と人間環境科学分野の2分野を置きます。臨床人間科学分野は心の働きや人間の行動、発達の多様な側面、現代社会における人々の心の健康や適応、さらにさまざまな文化現象などについて、多面的・実践的に研究を行います。人間環境科学分野は動植物の生態に関する研究、人間の諸活動による環境変化が生物個体や生態系に及ぼす影響の研究、また人間の身体 の健康や病気のメカニズム、栄養に関する研究などを行います。

博士後期課程では博士前期課程で身につけた学識と能力をさらに発展させ、以下のような基本方針に基づくカリキュラムを編成します。

1. 専門的な知を有機的に結合し、学際的視野に立った総合判断力を養うために「合同演習」という人間科学研究科の学生全員が研究発表する演習科目を設けること（人間科学合同演習）
2. 研究者として自立した活動をおこなうのに必要となる高度な研究能力を養い、博士学位の取得を目標とした研究指導を行うこと

教育課程については、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

アドミッション・ポリシー

本学大学院のミッションステートメントと本研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解

し、それぞれの分野の教育課程を履修するために必要な学力、資質を備えた人を受け入れます。

博士前期課程

1. 各分野が求める高度の専門的知識や実践的技能に関わる基礎をもった人
2. 明確な研究目的をもって課題を積極的に発見し、探究する意欲がある人
3. 国際的視野に立った研究を遂行する基礎となる知識と能力をもった人
4. 本研究科の理念・目的を理解し、自ら学修・研究を進めることができる人

本学の学部教育に引き続き学びたい人を受け入れるために、大学院進学を前提とした早期卒業生の受け入れ（人間行動学分野、環境科学分野、健康科学分野）、内部推薦入学試験（人間行動学分野、環境科学分野、健康科学分野）、一次試験免除入学試験（臨床心理学分野）を実施します。高度な専門的知識を獲得するのに必要な学力（外国語の能力、専門分野を学ぶための基礎知識・技能、思考力・表現力）を備えた人を広く受け入れるために、一般入学試験（秋季は臨床心理学分野を含む全分野、春季は人間行動学分野、環境科学分野、健康科学分野）を実施します。また、多様な経験やキャリアをもとに、より高い専門性を目指したい人のために、社会人入学試験（春季のみ、人間行動学分野、環境科学分野、健康科学分野）を実施します。

博士後期課程

1. 各分野が求める高度の専門的知識や実践的技能に関わる基礎をもった人
2. 明確な研究目的をもって課題を積極的に発見し、探究する意欲がある人
3. 国際的視野に立った研究を遂行する基礎となる知識と能力をもった人
4. 高度な職業人、教育・研究者を目指し、自ら創造的研究を進めることができる人

高度な専門的知識、創造性および表現力を備えているとみなすことのできる人を広く受け入れるために、一般入学試験（春季）を実施し、研究立案力、思考力、表現力、外国語の能力について考查します。